

大学・高専機能強化支援事業（支援 1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和6年度	学校コード	F117310105451	設置等組織名	総合科学部総合科学科
大学名	金沢星稜大学	設置区分	私立	事業計画名	地域の創造的復興を支える文理融合型人材育成を目的とした金沢星稜大学総合科学部の設立
学校種	大学	都道府県	石川		

1.年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画と取組状況、自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組は赤字で記載し、計画変更の承認を受けた計画については、未承認を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
			令和6年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
令和6年度	1-①令和6年春期から夏期 新学部準備室 設置 1-②令和6年春期から夏期 STEAM-D構想に基づく教育体制及び「横断型協同教育・研究支援体制」に基づく業務体制の整備開始 1-③令和6年夏期から秋期 新領域学部について第一次マーケット調査 1-④令和6年秋期から冬季 新領域設置についての対外意見交換会の設定	1-①令和6年春期から夏期 新学部準備室 設置 1-②令和6年春期から夏期 STEAM-D構想に基づく教育体制及び「横断型協同教育・研究支援体制」に基づく業務体制の整備開始 1-③令和6年秋期から冬期 新領域学部について第一次マーケット調査（R7.3.28承認） 1-④令和6年秋期から冬期 新領域設置についての対外意見交換会の設定 1-⑤令和6年12月、アンケート項目検討のため、クイズランچによるWebアンケート調査を実施	令和6年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
令和7年度	1-⑤令和7年4月「横断型協同教育・研究支援体制」に基づく業務体制の開始 1-⑥令和7年夏期から秋期 新領域学部について第二次マーケット調査	1-⑤令和7年4月「横断型協同教育・研究支援体制」に基づく業務体制の開始 1-⑥令和7年春期から秋期 新領域学部について第一・二次および第二次マーケット調査（R7.12.18承認）	令和7年度自己評価	【2】計画を十分には実施していない。 事業計画に沿って第一次マーケット調査（高校生対象）および第二次マーケット調査（高校生対象および企業対象）を実施した結果、十分な学生確保は見込めないことが判明し、新学部設置準備委員会において事業の継続は困難と判断した。令和8年2月27日開催の理事会において事業廃止を決議し、大学改革支援・学位授与機構に事業廃止承認申請書を提出した。
令和8年度			令和8年度自己評価	リストから選択してください。
令和9年度			令和9年度自己評価	リストから選択してください。
令和10年度			令和10年度自己評価	リストから選択してください。
令和11年度			令和11年度自己評価	リストから選択してください。
令和12年度			令和12年度自己評価	リストから選択してください。
令和13年度			令和13年度自己評価	リストから選択してください。
令和14年度			令和14年度自己評価	リストから選択してください。
令和15年度			令和15年度自己評価	リストから選択してください。
認可申請又は届出	令和9年3月 総合科学部総合科学科(仮) 認可申請予定			
定員減又は学部等の廃止	女子短期大学部経営資源科（経済学部内） 令和6年11月 定員減の届出（52人減）、令和7年4月 入学定員98人 令和8年5月 定員減（募集停止）の届出予定			

フォローアップ対象年度	令和7年度	大学名	金沢星稜大学
-------------	-------	-----	--------

2.申請資格の確認

- i)

学生募集停止中の大学
- ii)

学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学
- iii)

「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学
- iv)

設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学
- v)

大学、短期大学及び高等専門学校を設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学
- 上記項目の申請資格の状況について、ブルダウで選択してください。（ブルダウの選択肢：すべての項目に該当していない、右の○の項目に該当している）

申請資格の状況	i)	ii)	iii)	iv)	v)
すべての項目に該当していない					

3.申請要件の取組状況

- ①

高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。
- ②

十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。
- ③

産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。
- ④

特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。
- ⑤

計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。
- ⑥

特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。
- ⑦-1

社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。
- ⑦-2

学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。
- ⑧

入学定員が20名以上増加する計画であること。
- ⑨

事業計画の進定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）
- ⑩

大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80％を満たす計画であること。
- ⑪

フェーズ3の助成期間終了時まで、に、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5％を上乗せた水準以上とする計画であること。
- ⑫

計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。
- ⑬

選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文部科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。
- ⑭

文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

上記項目の①～⑬の申請要件について、令和7年度の取組の状況についてブルダウで選択してください。（ブルダウの選択肢：すべての項目が要件を満たしている、右の○の項目の要件を満たしていない）

申請要件の状況	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦-1	⑦-2	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
右の○の要件を満たしていない		○					○			○				

①～⑬の要件を満たしていない又は対象ではない項目がある場合、左欄に該当する申請要件を選択し、右欄に課題（理由）とその対応について記載してください。

項目	課題（理由）
②	複数回のアンケート調査結果から、十分な学生確保の見通しが立たなかったため、新領域分野での学部設置を断念することとした。
⑦-1	企業を対象としたアンケート調査結果から、社会における人材ニーズへの十分な対応が見込めなかったため、新領域分野での学部設置を断念することとした。
⑨	複数回のアンケート調査結果から、十分な学生確保の見通しが立たなかったため、新領域分野での学部設置を断念することとした。

※については、現在の状況をブルダウより選択してください。

申請要件※について	現在の状況
※文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	認定を受けておらず申請する意向もない

4.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和7年度の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

- チェック

a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- チェック

b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
- チェック

c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
a. 本学では、「令和6年度能登半島地震」の発生をうけて、2024年度科目としてオムニバス科目「創造的復興学」を新たに開講することとした。この「創造的復興学」をきっかけとして、地域行政・企業・地域系シンクタンクと連携し、地域の創造的復興を学ぶためのPBL型授業を総合科学部の開設科目として開設するための連携協議を、2024年に設置する新学部準備室が中心となって推進する。	a. 地域の創造的復興を学ぶためのオムニバス科目「創造的復興論」を2024年度に開講し、2025年度には本学学生309名が受講した。また、令和7年度能登半島地震の被災地支援のポテンシア活動に、本学学生延べ217名が参加し、地域社会との連携を深めた。本学では、「地域連携による地域貢献活動」推進事業や金沢市や白山市等自治体との連携協定により、各ゼミナールが地域の課題解決に取り組んでいる。2025年度は、金沢市との連携事業報告会および石川県中小企業家同友会において、企業や自治体と連携したPBL型授業の整備・実施について協議を深めた。	
b. また、同科目を「大学コンソーシアム石川」や「金沢市近郊私立大学等の特色化推進プラットフォーム」へ提供するとともに、他大学との共同開講の可能性についても検討する。	b. 同科目を「石川シティカレッジ」開講科目として「大学コンソーシアム石川」へ提供し、加盟校の学生54名が受講した。 c. 2025年度は、人文学部に新たに「国際英語学科」が開設され、既存の「国際文化学科」とあわせ2学科体制となった。各学科の特性を重視しつつ、グローバル化していく社会で多様性を身に付け、異文化理解力を養うために海外協定校の新規開拓としてアジア圏（スリランカ「LNBTI（Lanka Nippon BizTech Institute：スリランカ日本情報科学大学）」・【韓国】成均館（ソンギョングァン）大学校」文化大学）の2大学とそれぞれ、共同研究等を視野に入れた包括的な協定に向け調整を図っている。また、【シンガリー（コドローニャー・ジャヌ大学）と連携プログラム科目については、継続的に検討を行っている。加えて、2026年度からは、新たな試みとして人文学部配当科目「Interpersonal CommunicationⅡ」科目にて【マレーシア（マラヤ大学）】とのオンラインを通じたCOLL型授業での共同研究による連携実施を計画中である。	
c. 人文学部での活動を基盤とした、20カ国・地域61大学の海外協定校との間においても連携プログラム開設の可能性を検討していく。		

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

- チェック

a.入学者選抜における科目の見直し
- チェック

b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- チェック

c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- チェック

d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）
- チェック

e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
a/b/c. 入試制度・科目の見直し、女子学生確保、初等中等学校との連携についてはこれまでも取り組んでいるところであるが、それぞれの課題が分断されて取り扱われてきた点については反省がある。 2024年度より大学全体の課題として「横断型協同教育・研究支援体制」を整備し、「入学」「教育」「進路」などを横断・統合的に捉えて各機関との解決・向上に向けた施策に取り組んでいく。 2025年度までに、入試の制度設計、受験生確保のためのマーケット戦略、高校のみならず中学までも視野に入れた教育連携、出前講義などの課題を総合的に対応可能となる「アドミッションセンター」の機能を整備する計画である。	a/b/c. 2025年度は、入学者選抜会議、IR室、広報ワーキンググループが連携し、入試の制度設計、受験生確保のためのマーケット戦略、初等中等教育機関との連携に取り組み、2026年度「アドミッションセンター」発足に向け規程を整備した。また、既存学部の改善・改革のため、学部改革準備委員会の設置準備を進めた。	

大学名	金沢星稜大学
-----	--------

2.理・工・農学分野の学位を授与できる学部等（学士課程）の状況

[illegible]

大学名	金沢星稜大学
-----	--------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	658	658	658																
		入学者数	人	740	807	825																
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-																
		入学者数	人	-	-	-																
	入学者合計	入学定員(A)	人	658	658	658																
		入学者数(B)	人	740	807	825																
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.12	1.23	1.25																
	収容定員等	収容定員(C)	人	2632	2632	2632																
		編入学定員	人	0	0	0																
		在籍者数(D)	人	2794	2936	3064																
		編入学者数	人	2	1	3																
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.06	1.12	1.16																

4.外部資金の状況（全学）

年度			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
改組状況			申請－5年	申請－4年	申請－3年	申請－2年	申請－1年	申請	選定												
項目		単位																			
外部資金獲得額		千円	14,703	17,471	18,468	20,884	18,472	11,879	15,580	12,980											

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 （過去5年間ににおける各年度の外部資金	千円	18,137
本事業による助成金の額(F)	千円	693,166
フェーズ3の助成期間終了時までに達成する額(E+F×2.5%)	千円	35,466

特記事項

編入学定員は、若干名としている。